

エルサルバドル政治経済月報 (2026年2月)

2026年2月
在エルサルバドル大使館

内政

1. 米との文化遺産保護に関する覚書延長

2月10日、ヒル外務大臣は、カスティージョ文化大臣と共にフェローズ米臨時代理大使と文化遺産保護の覚書延長文書に署名した。同協定は1995年に世界的にも米国とのこの種の初めての覚書として署名されて以来、5年ごとに延長されており、今般の延長は2025-2030年に相当するもの。ヒル大臣は、教会関連、植民地時代、20世紀前半までの遺産の違法・不適切な移動を制限するエルサルバドル及び米政府の継続的取り組みを強調し、カスティージョ文化大臣は、30年間途切れず続く協定の政治的再確認であり、文化遺産は商品ではなく記憶・アイデンティティ・共同の遺産だ、と述べた。

外交

1. ブケレ大統領の米全国祈りの朝食会出席

2月5日、ブケレ大統領は米ワシントンD. C. で開催された第74回全国祈りの朝食会に来賓として出席し、トランプ米大統領から「お気に入りの一人」、「米国の素晴らしい同盟者」と称賛された。また、トランプ米大統領は、エルサルバドルの刑務所制度を評価し、米国が捕らえた殺人犯、麻薬密売人、不法入国をして重大な罪を犯した人々を送還している、と述べた他、米国は11,800以上の殺人事件を抱えており、その(犯罪者の)多くが現在エルサルバドルの刑務所に収容されている、と述べ、ブケレ大統領に感謝の意を表した。

ブケレ大統領は、リーダーシップとは意思決定であると述べた他、エルサルバドルのギャングは悪魔崇拝的であり精神的なものであったため、治安改善を「奇跡」とし、神の介入によるもの、と挨拶で述べた。

2. ヒル外務大臣の米国訪問

(1) 平和理事会第一回首脳級会合出席

2月19日、ヒル外務大臣は、米ワシントンD. C. にて開催されたトランプ米大統領が推進する、平和と紛争地域復興を促進するメカニズム創設に向けたイニシアチブ「平和理事会」第一回首脳級会合に、ブケレ大統領の代理として出席した。

ヒル外務大臣は、自身のSNSにて出席できたことを光栄に思う、と投稿した他、40名以上の世界各国の指導者が参加した本会合において、我々は地球規模の課題に他国と連携して取り組む意思を改めて表明した旨投稿した。

(2) ノーム米国土安全保障長官（当時）との会談

2月20日、ヒル外務大臣はノーム米国土安全保障長官と会談し、自身のSNSにて、実りある会談を行い、率直かつ建設的な対話の中で、二国間協力の進展について議論し、共通の関心分野における関係をさらに強化する決意を改めて確認したことや、米国における一時的、安全かつ秩序ある雇用機会を創出することを目的とする *Movilidad Laboral*（注：一時的就労ビザの付与）プログラムにつき議論したこと、麻薬取引や国際的な組織犯罪との闘いにおける共同の成果についても話し合った、と明らかにした。

3. ウジョア副大統領の欧州訪問

2月16日～25日、ウジョア副大統領はスペイン、フランス、ベルギーを訪問し、国際機関、仏議会及び欧州議会関係者や教育機関等にて会談・講演を実施し、ブケレ政権によるエルサルバドルの治安改善及び投資誘致他を行った。

スペインでは、イベロアメリカ司法相会議事務局長、イベロアメリカサミット事務局長、世界法曹協会会長及び上院議長、EUDEビジネススクール所長等と会談した。フランスでは、OECD事務次長、仏上院中米友好議連会長代行、Expertise France CEO、UNESCO事務局長との会談及び教育機関での講演を行った他、ベルギーでは欧州議会のラ米議連会長及び副会長、人権小委員会委員長との会談や、保守改革派グループの会合に出席した。

経済

1. ブルーエコノミー庁の創設（報道）

2月2日、議会はエルサルバドル・ブルーエコノミー庁（Autoridad Salvadorense de Economía Azul: ASEA）創設を承認。経済省管轄となり、これまでの農牧省所管の漁業・養殖開発センター（CENDEPESCA）等3機関を統合・代替する機関となる。長官は大統領府により任命され、これまで規定されていた年齢制限（40歳以上）、学位要件等が緩和される。

2. 2025年貿易統計発表（BCR）

エルサルバドル中央銀行（BCR）による2025年統計が発表され、輸出は1.9%増の約64億ドル、輸入は12.9%増の約178億ドル、貿易赤字は20%増加し約114億ドルとなった。輸出では、約50%が中米（グアテマラ19.6%、ホンジュラス16.7%、コスタリカ4.5%等）、米国が32.4%を占めた。輸入では、米国が26.

2%、中国が20.0%を占めた。

3. 中国による無償資金協力(2月5日~13日付当地中国大使館SNS及び当地主要紙)

(1) 在エルサルバドル中国大使館は、最高裁判所(CSJ)へ120台のPCモニターを寄贈。右は技術的強化及び案件管理効率化、組織犯罪対策マルチタスク及びプロセスの標準化を支援するものである。

(2) 2月8日、新国立競技場の屋根の設置が始まった。今年末までに、観客席と屋根の工事が完了する見込み。

(3) 中国から8便の貨物便で34万4000台以上の電気機器が輸送され、エルサルバドルの学生へ寄贈された。教育省と連携し、教育協力の深化を図る。

(4) 11日、マルセラ・ピネダ東ラ・パス市長及びMa Ning当地中国大次席は、サカテコルカ地区エル・ピチチェ村の照明機材設置竣工式を実施。本件は市の「Iluminando La Paz Este」プロジェクトの一環であり、中国大使館が70基の照明機材を無償提供した。

4. 韓国による開発協力(2月5日付当地韓国大SNS、12~13日付当地主要紙)

(1) 「エルサルバドル医療人材能力強化プロジェクト」の一環として、国立保健卓越センター(CENES)の建設を建設。この近代的保健センターは、学習室、実習室、講堂、視聴覚設備を備え、保健省の医療従事者に対する継続教育の場として、ディプロマコース、講座、講演会などを通じて重要な役割を果たす。

(2) UES副学長(学術担当)及びアリゾナ州立大学(ASU)連携ディレクターは、テレビ番組「Dialogo 21」にて、KOICAがUESのイノベーションと起業に関するプロジェクトに資金援助を行う、と述べた。様々な専攻の専門家を育成し、新製品や新プログラムの開発に注力し、その後特許を取ることを目指している一方、大学内の別のグループは起業家として教育され、企業の雇われ側になるとの考えをやめるように指導される。

(3) KOICAは大統領夫人室に対し、地方における、新生児・母体の高リスク緊急対応として、タイプA救急車10台、タイプC救急車26台、移動診療所3基、ダブルキャブ・ピックアップ5台を供与し、緊急医療システム(SEM)及び早期検知体制の強化を支援する。全国で約410万人が恩恵を受ける見込みである。

5. Moody'sによる格付評価「B3」での据え置き(Moody's)

2月6日、信用格付会社Moody's社は、エルサルバドルの信用格付を「B3」のまま据え置き、見通しはポジティブに引き上げた。緊縮財政、税収増、2025年経済成長率4%を背景とした見通しの引上げながら、依然高い公的債務率が指摘された。また、公的債務率が着実に減少すれば、格付引上げもあり得る、との可能性を指摘した。

6. エルサルバドルにおける米国輸出入銀行の業務開始（報道）

2月6日、当地主要紙ディアリオ・エルサルバドル紙は、米国輸出入銀行（EXIM）のエルサルバドルでの業務開始を報じた。当地米国大使館は、同行の業務展開について、公共部門への長期融資を提供し、米国輸出業者のために更なるビジネスチャンスを生み出すもの、とコメントした。

7. ロープウェイ建設の開始（2月7日付当地主要紙）

仏ポマ者は施工主として、メヒカノス・歴史地区間のメトロケーブル（ロープウェイ）の工事を2月16日から開始する。仕様は、10人乗りキャabinを147～153基用い、速度は毎秒6メートルとする計画である。右区間の所要は14～15分とし、現在の自家用車で最大1時間、公共交通でそれ以上の移動時間を大幅短縮する効果を見込む計画である。

8. 2025年強制送還者数（2月7日付エル・ディアリオ・デ・オイ紙）

入国管理局（DGME）のデータによると、2025年の強制送還者総数は16,051人で、2019年以降で最高水準。内訳は米国14,794人（92%）、メキシコ896人、その他361人。2025年上半期は、過去数年と同じ傾向が見られたが、7月以降、送還者数は増加した。

強制送還便の動向については、2025年は、米国から175便（対前年比46%増）であり、2022年の189便には及んでいない。25年受入便数は、グアテマラ（532便）、ホンジュラス（451便）、メキシコ（292便）に次ぐ第4位である。

国境拘束者数について、米税関・国境取締局（CBP）によると、1日平均15人のエルサルバドル人が米国への不法入国を試みた。

9. Alquimia Coffeeの「2026年世界のコーヒーベストショップ100」第3位入賞（報道）

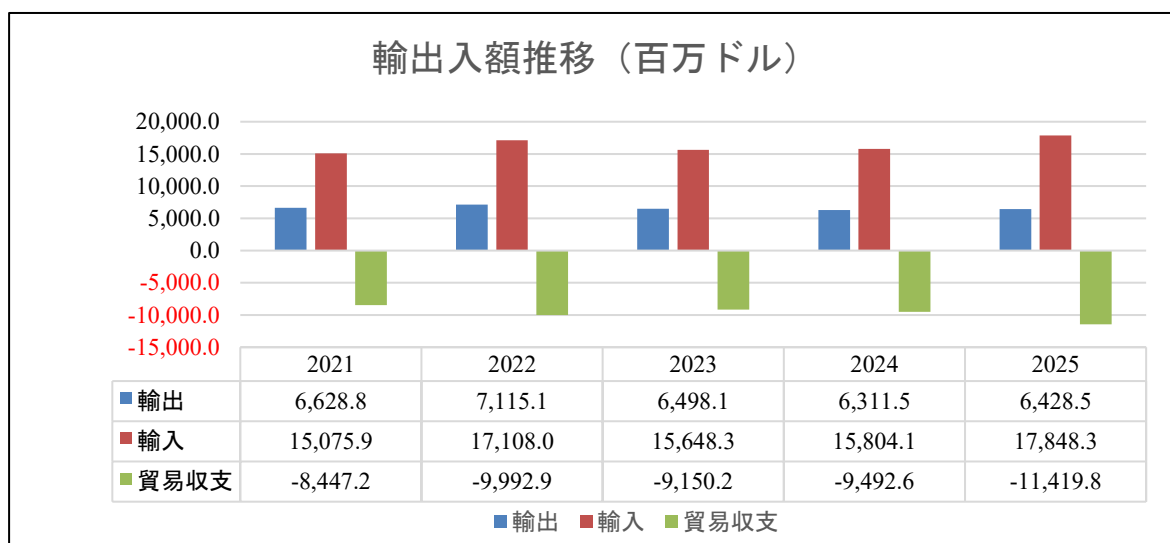
ウェブサイト「The World's 100 Best Coffee Shops（世界のコーヒーベストショップ100）2026」において、首都サンサルバドルに店舗を構えるAlquimia Coffeeが第3位に入賞した。

10. ラ・ウニオン港へのクルーズ船の寄港（当地主要紙）

2月13日及び2月20日、ラ・ウニオン港に、ロンドン発クルーズ船「Hebridean Sky」が寄港した。英国、カナダ、オーストラリア、米国からの乗客と乗組員合わせて170名以上が乗船している。乗客らは、世界遺産「ホヤ・デ・セレン」やタスマル遺跡に立ち寄り、観光を堪能した。

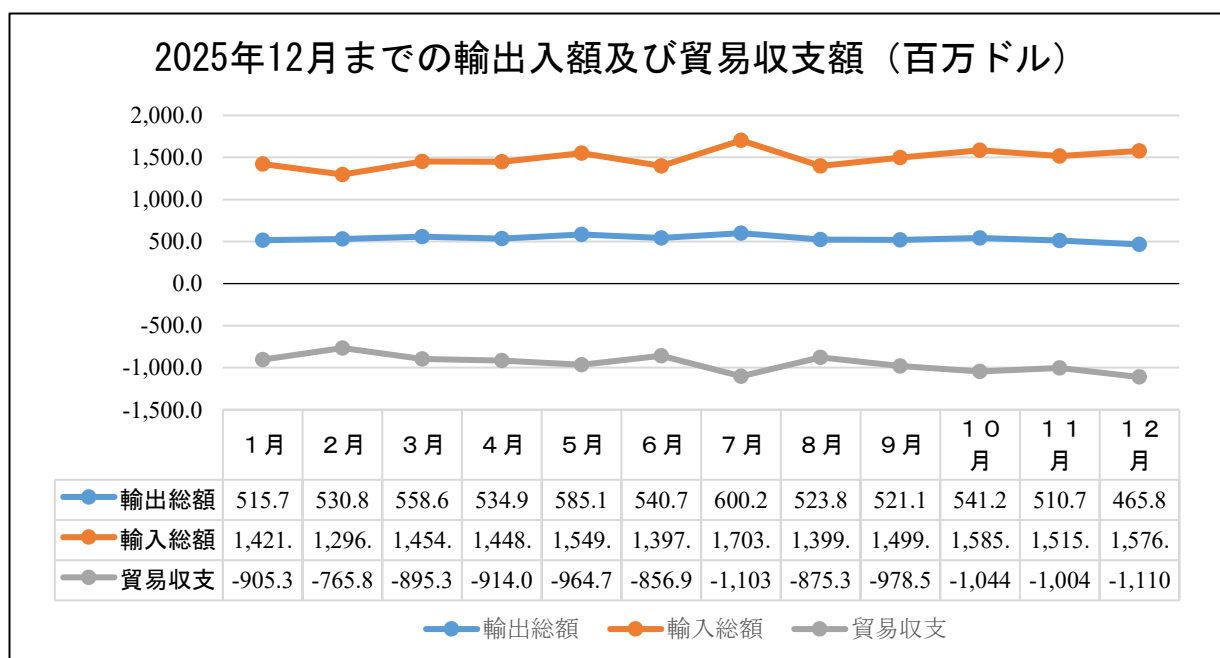
11. 貿易総額

2025年の輸出総額は64億2,851万ドル（前年比1.9%増）。輸入総額は178億4,831万ドル（前年比12.9%増）となった。



※2024年数値は、2025年発表により修正されたもの。

（エルサルバドル中銀データをもとに作成）



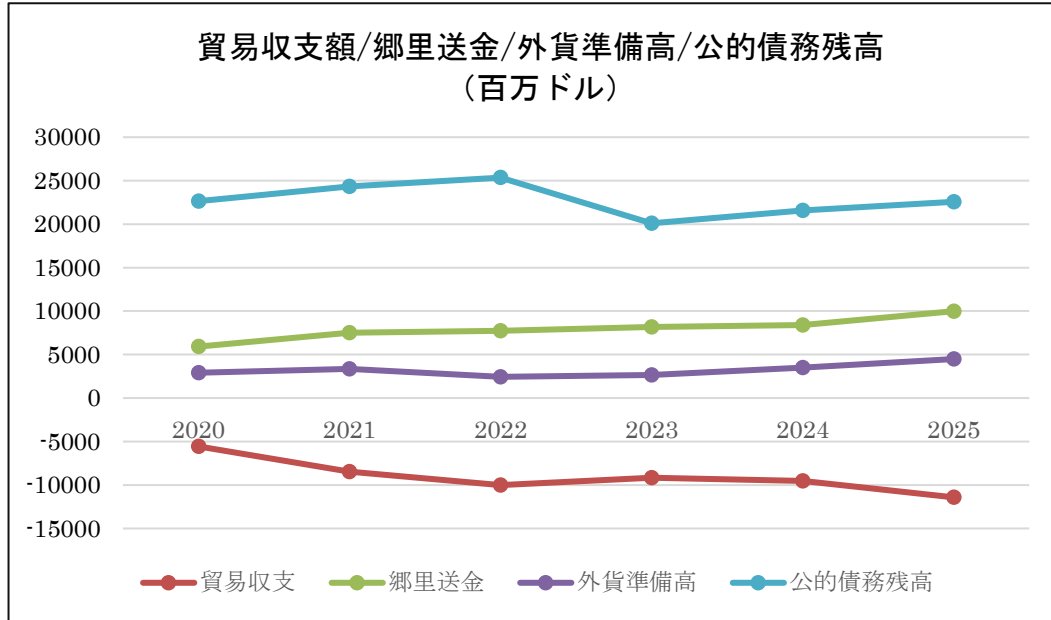
（エルサルバドル中銀データをもとに作成）

12. 貿易収支額・郷里送金・外貨準備高・公的債務残高

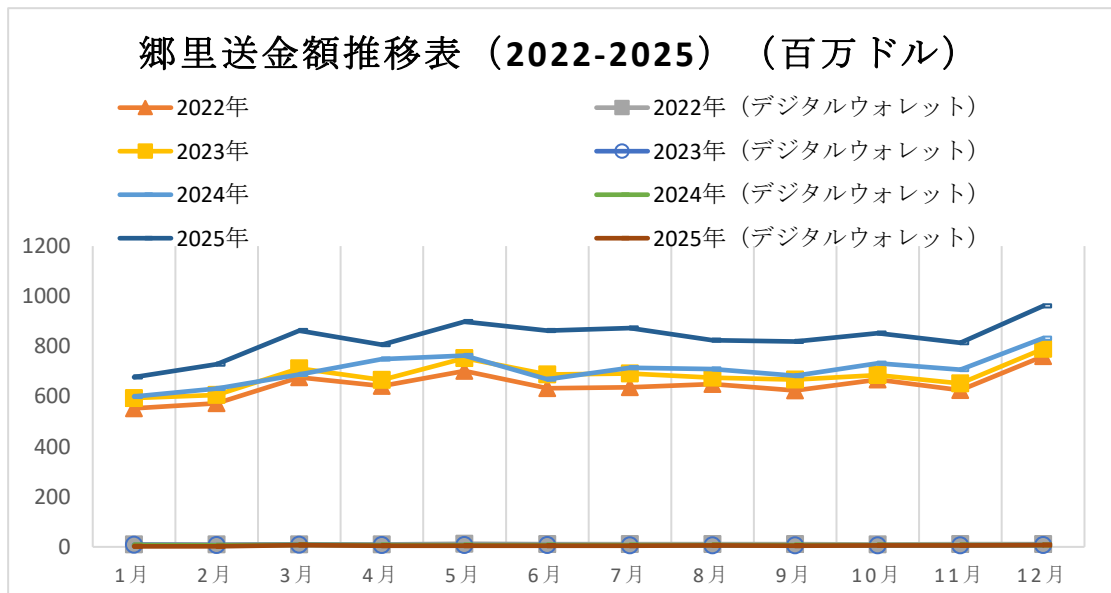
・2025年の貿易収支額はマイナス114億1,980万ドルとなり、前年より赤字額が19億2,718万ドル増加した。（エルサルバドル中銀2025年報告書統計の数値）

・2025年の郷里送金額は99億8,790万ドルとなった。そのうち米国からの送金

は、全体の91.6%（92億2,490万ドル）を占めた。



(エルサルバドル中銀データをもとに作成)

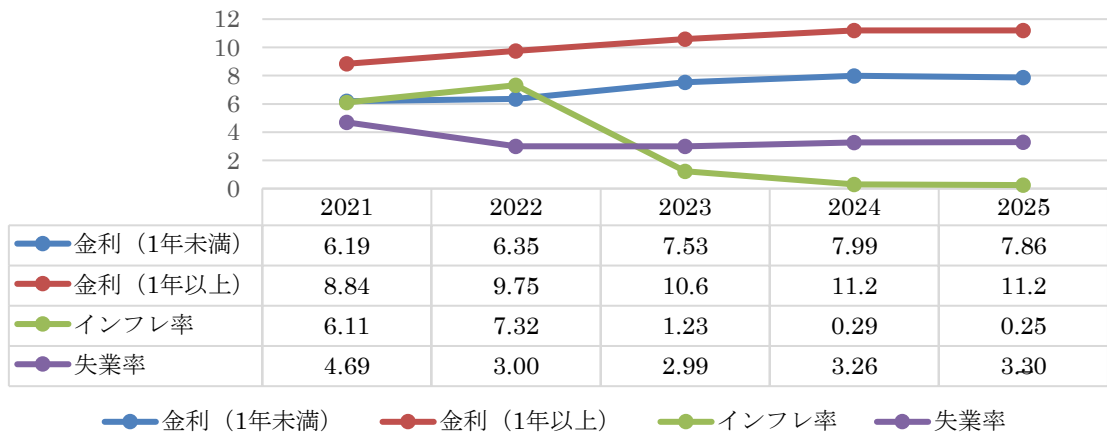


(エルサルバドル中銀データをもとに作成)

13. 金利・インフレ率

2025年のインフレ率はプラス0.25%であった。また中央銀行(BCR)による2025年の失業率は現時点で公表されていない(世界銀行データ3.3%)。

金利/インフレ率/失業率



(エルサルバドル中銀データ (失業率のみ世界銀行データ) をもとに作成)